

◆祈ってください。

今号では、被災教会からの報告をいただきました。既に、会堂の再建を果たした水戸自由が丘教会(茨城地区)と今、再建途上にある宇都宮教会(栃木地区)、伊勢崎教会(群馬地区)です。どうぞ、皆さまの日々の祈りの課題に加えて、お祈りください。水戸自由が丘教会よりの報告にもありますが、あなたの祈りが、確かな会堂復興への力となります。

## 「キリストの福音のめぐみの中にある教会の回復」

西上信義 (水戸自由が丘教会)

2011年3月11日午後2時45分、東日本関東大震災のために水戸の街は激しく揺れました。大津波のために大洗の街と教会は洗い流されそうでした。三次被害として福島原子力発電所は4基とも崩壊をし、放射能の被害に恐怖を感じました。私たちの水戸自由が丘教会も屋根のげしが崩れ、礼拝堂の外壁と内部に大きな亀裂が入り、天井がひずみ、下水道施設が破損しました。3日後に、教区から飯塚拓也副議長と松下設計代表が問安と調査においでくださいました。どれほど信仰の支えを頂いたかわかりません。茨城地区久保田愛策地区長が慰めのお見舞いをくださいました。

関東教区秋山徹議長、被災復興支援委員会の方々、教団雲然書記、北教団支援委員長、大三島幹事がお見舞いくださり、復興支援の祈りをくださいました。10月-11月にかけて、教会員8名の祈りと献金、共済組合のお見舞金、教団と教区の祈りと支援を受けて復興工事が行われました。礼拝堂につち音が響いて、天井が補修され、内装が張り替えられました。外壁は安全なガリヴァニウムの鋼板で覆われました。牧師館の傷んだ壁も補修されました。最後に排水施設が補修されました。まるで教区145牧会・伝道所の祈り方々の祈りによって、生ける神様が働いて下さり、長年の水戸伝道に耐えた私たちの教会が新しい宣教のヴィジョンに導かれる思いでした。

2011年12月のクリスマス礼拝は、新しく復興された新会堂でもたれました。3名の信徒の方々によって守られてきた水戸由ヶ丘の礼拝が19名の礼拝を祝いました。教会の親しい方々、水戸友の会の方々、街の方々がクリスマスを祝いました。クリスマスイヴ礼拝は9名の方々と賛美をしました。2012年1月22日(日)午後4時-5時半。復興記念感謝礼拝が49名でもたれました。「ぶどうの木の教会」飯塚拓也牧師、秋山徹議長の祝辞。茨城地区の方々、関東教区の方々の喜びと賛美に溢れました。

私たちは、祈られています。私たちは励まされています。ですから、「キリストの生命と愛を育てる教会」として、水戸の街の「キリストの福音の灯台」として、希望の伝道を歩みます。

### 日本基督教団東日本大震災救援募金

※現在の募金状況(2013年5月20日現在)

¥557,113,187 「東日本大震災救援募金」

¥251,358,519 「東日本大震災海外献金プロジェクト」

### 6月のボランティア募集

6月18日(火)～21日(金)

問合せ 小林祥人 (090-3529-5140)

どしどしご応募ください

「今こそ、心と魂を傾けてあなたたちの神、主を求め、

主なる聖所の建築に立ち上がれ」(歴代誌上 22章19節)

小林明子 (宇都宮教会)

2011年3月11日。一瞬にして天井の壁が落下し、漆喰壁の瓦礫が至るところに散乱し、白壁の埃で真っ白な礼拝堂を目の当たりにしてから、2年3ヶ月が経ちました。この間、教区・教団をはじめ諸教会の皆様方にお祈りと励ましのお言葉をいただき、物心両面からのご支援、ご援助を賜り、厚くお礼を申し上げます。

「今こそ、心と魂を傾けてあなたたちの神、主を求め、主なる聖所の建築に立ち上がれ」。現在はこの御言葉に導かれ、新会堂建築に向けて教会員一同一丸となって取り組んでいるところです。

震災直後、新会堂建築への決意は早々に一致しました。礼拝堂の天井は修理出来たものの、壁に残った無数のひび割れは、安穩に教会生活を送っていた私どもに、後戻り出来ないよう神様が目覚めさせて下さった証しと思っています。

直ちに結成された建築委員会は、現在まで33回の協議を重ねて参りました。幸いに信頼出来る相応しい設計士(寺田昌彦設計士)が与えられ、委員の熱意も日毎に強められ順調に進捗して参りました。建築業者も内定し、仮礼拝堂への移転も完了し、確認申請の許可を得て、いよいよ業者との本契約を結ぶ段階まで漕ぎつけました。

しかし、ここで少々の足踏み状態となって参りました。旧会堂の地下室が隣家至近に迫っているため解体工法と工事費の工面に時間がかかり、加えて地盤関係の基礎工事に係る資材費増、更に消費税増税前の駆け込み工事により資材費や工賃増等により総工費が膨らみ相当額の精査が必要となってしまいました。

けれどもこの足踏み状態は教会にとって貴重な有益な時間となりました。毎回の委員会は精査に次ぐ精査で厳しいやり取りもありましたが、神の聖所として本当に無くてはならないものは何かが見えてきました。「礼拝堂に必要な最小限のもの」とは何か、「開かれた教会」とは何か、本当に「震災復興のシンボル」として掲げるものとは何だろうか、いつの間にか「人間的な思い」が優先してはいないか、等々改めて考え直す良きチャンスをおいただきました。見える教会堂の建築と共に、見えざる教会が徐々に内部で整えられている事を思わせられ、主のご計画の深さに感服し、感謝しております。どうか当教会の献堂の実現に向けて更なるご加禱の程お願い申し上げます。



## 「無牧の時から、牧師招聘へ。震災被害による会堂解体から、建築へ」

伊勢崎教会復興の今

栄光在主。

最初に、日本キリスト教団伊勢崎教会に対しまして、教団、教区、地区をはじめとして多くの方々に祈り、励ましを頂き、心より感謝申し上げます。

被災し、深く痛んだ、1938年以來74年間私たちを招き入れ続けた会堂を、昨年（2012年）11月の臨時総会に於ける会堂新築の決議によって、解体する事となりました。群馬県の歴史的建物の取り壊しという事で、地元地方紙に度々報道され、会堂見学を10日間にわたり開催した所、地元は元より遠方からも、思い出のある方など、たくさんの方々が会堂を訪れました。同年11月17日（土）18日（日）解体礼拝を代務者の小峰擁牧師（前橋中部教会）の司式のもと執り行い、心配された2次的な災害なども無く会堂の取り壊しが行われました。

教会は、今年の春より牧師の突然の辞任を受け無牧となりました。これに対し、教会員は、会堂建築と牧師招聘という教会の根幹をなす重大な案件を同時に進める難問を抱えながら、一致して歩んで参りました。特に代務の小峰牧師を中心に、群馬地区、関東教区の全面的なご支援をいただき、恙無く毎週の礼拝を持つことができました。クリスマスには受洗者が与えられ、主の備えを知る喜びに溢れた降誕礼拝となりました。

新任の主任担任教師について12月9日の臨時総会に於いて、今春東京神学大学を卒業の遠藤尚幸氏の招聘が承認され今年4月より着任されました。イースター礼拝は、仮の礼拝堂が立錐の余地が無い程の出席者で、到着間もない遠藤尚幸氏と共に讚美溢れる恵みの時となりました。無牧の時の困難さは、主の復活の日に喜びに変えられました。



3月10日の定期総会に於いて、会堂建築委員会より、新会堂の建築概略、総予算、2013年12月完成予定の工事日程、返済計画等の詳しい説明がなされ、全会一致で可決承認されました。協議の中、多くの被災教会と共に再建に向かう事をしっかり自覚し、会堂建築に向かう意思確認がなされました。

新任の遠藤伝道師と歩み出し、いよいよ会堂建築が始まって参ります。どうぞ引き続き皆さまのお祈りの内に加えて下さいますようお願い致します。また伊勢崎教会も被災された方々のための祈りを忘れずに歩んで参ります。主の御名によってお祈り致します。

日本キリスト教団伊勢崎教会  
伝道師 遠藤尚幸  
会堂建築委員長 臂 友幸

## 「エマオ」をお訪ねしました

飯塚拓也（統括主任）

去る4月26日(金)に、秋山議長と共に「エマオ」をお訪ねしました。「エマオ」とは、東北教区被災者支援センター・エマオのことであって、関東教区では2012年7月からボランティアを継続して派遣してきました。

これは、第62回教区総会の決議によるものです。関東教区は被災した教区であるからこそ、奥羽教区東北教区の被災を共にし、共に歩ませていただくためにボランティアを派遣することが可決されました。そして、2013年度も引き続きボランティアを派遣させていただくことを願って、関東教区より訪問させていただきました。

センター長の上野和明さんと教団派遣専従者の佐藤真史さんが対応してくださり、また兵庫教区被災者生活支援・長田センター主事の柴田信也さんが同席してくださいました。

エマオのボランティアの状況ですが、2011年度は1,800名で一般の青年等が多かったそうです。しかし、2012年度は1,500名で、逆転して教会関係のシニアが増えたとのことでした。また、ワークの内容も変化しているとのこと、例えば畑にあるこまかい瓦礫を手で拾う作業や農作業のお手伝い、枯れた庭木の撤去など、特別に力や技術を要する作業から、いわば誰でもできるワークが求められるようになってきているということでした。ボランティアの夕食を作る調理ボランティアも求められています。

初期のボランティアのピークが収まっていく中で、しかし地道なボランティアは継続的に求められており、それに教会のシニアのメンバーが応えてくださっている状況ということです。

ボランティアを派遣する団体の数も減る中、エマオのように腹をすえて取り組んでいるところは少ない声が被災地からは聞かれるとのこと。教会の地域への奉仕として、エマオが今もなお良き証しの業をされていることに胸が熱くなりました。

注目すべきは、ワークの依頼は依然多くて、それに応えきれずに待っていただいている状況にあるということです。また、長期休みは連休にはボランティアが集まるけれども、休みの後のボランティアの数の落ち込みがあるということでした。この声に、私たち関東教区は応えていきたいと思いました。

エマオの2013年度の活動計画として、ボランティア派遣の継続と笹屋敷との関係を大切にすること、仮設支援（お茶っこクラブ、お弁当クラブなど）があるとのこと。「支援を重ねる中で、新たな支援が生まれてくる。支援が支援を呼ぶ、つながりが広がっている」（佐藤さん）との言葉が印象的でした。

関東教区のボランティアの継続的派遣に対して、高く評価をいただくと共に、2013年度にはぜひボランティアの少ない時期に支援をお願いしたいとのことで、この依頼に教区としてお応えしたいと改めて思いました。

来る5月28日(火)～29日(水)の第63回関東教区総会でも、「東日本大震災」被災支援に関する件が提案され、その内容の一つに「ボランティアの継続的派遣に取り組む」があります。また改めて皆さまにボランティアの呼び掛けがあると思いますが、ぜひご参加いただきたいと思えます。

ブドウが木につながって豊かな実を結ぶように、被災を超えてつながりがつながっていくことは、教会の連帯の証しであり信仰の喜びだと思ふのです。